

RPA ゼロから、年間 2,260 時間を削減！ 「医療業界での RPA 導入」講演レポート ～IT 化でもパイオニアを目指して～

訪問歯科のパイオニア、医療法人社団高輪会（所在地：東京都港区、理事長：相浦洲吉、以下 高輪会）は、RPA のリーディングカンパニーである Blue Prism 社が主催し、国内外の RPA 活用事例が発表されるオンライン・バーチャルイベント「Blue Prism World Virtual 2020 Japan」にて、弊社コーポレートシステム部・部長の坂下秀雄が「医療業界での RPA 導入」をテーマに登壇しましたので、ご報告いたします。



オンライン講演の様子

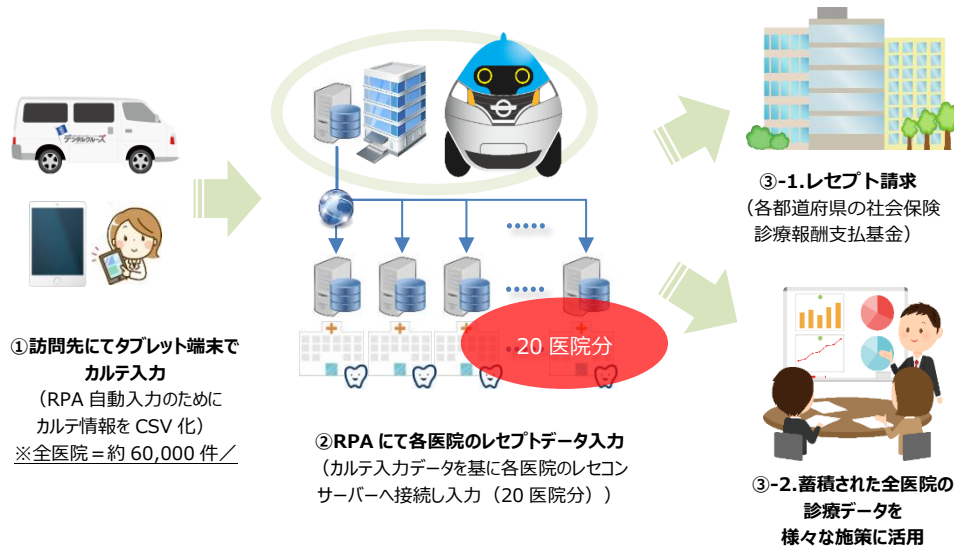
大企業が名を連ねる中、高輪会は「医療業界での RPA 導入」をテーマに講演いたしました。RPA をゼロからスタートし、年間 2,260 時間を削減させることができるまで、どのように推進してきたのか、ポイントをお伝えします。

■ RPA とは

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）は、「ロボットによるプロセスの自動化」を意味します。つまり、PC で人間が行っている操作をロボットが記憶し、人間に代わって実行する仕組みのことです。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、デジタルワーカーとして RPA の有効性も実証されています。高輪会ではコロナ以前から RPA を導入していたことで、あらゆる面で役立ちました。

■なぜ RPA 導入を決めたのか



カルテデータ入力の流れ

高輪会では毎月 6 万件超のカルテデータをレセプトコンピュータ (請求システム) に入力しています。作業時間が 1 患者あたり 10 分~15 分とすると、月に 15,000 時間もの時間を入力作業に費やしていることとなります。

この業務を RPA に置き換えることで、工数削減ができ、コストメリットが高いと判断して RPA 導入を決定しました。

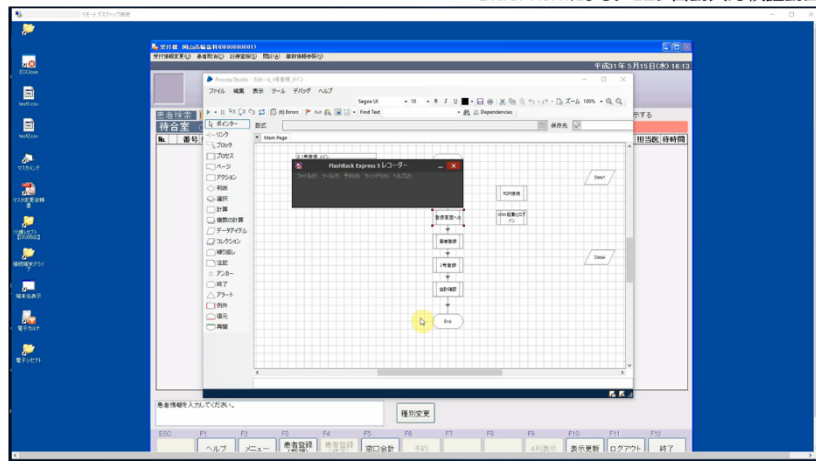
■ RPA 導入時の検証テスト

レセコン (レセプトコンピュータ) 自動入力 RPA検証テスト

2019年5月にRPAでレセコンの自動入力の検証を実施。レセコンは各医院にリモートデスクトップ接続を必要とするため、RPAによる自動操作のハードルが高く、RPA選定の重要なポイントとなった。

(※検証テストではブラザージャパン(株)様、ワークスアイディ(株) (旧社名: キューアンドエーワークス(株)) 様に多大なるご協力をいただきました。)

▼BluePrismによるレセコン自動入力検証動画



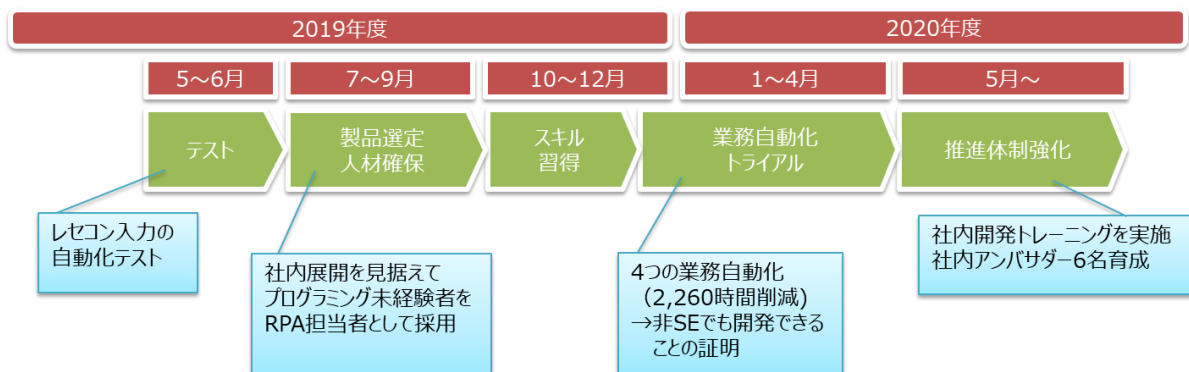
高輪会は複数医院を運営する法人のため、リモートデスクトップ接続経由での入力を行っています。実際にリモートデスクトップ環境で RPA が正しく認識されるのか、検証を行いました。結果、月 15,000 時間かかっていた入力作業を RPA により完全自動化が可能と分かりました。

■なぜ Blue Prism を選んだか

- ① 医療情報を扱う重要業務に対応できる高セキュリティ機能
 →情報漏洩リスクを抑えるため必須と考えました。海外では銀行が導入している例もあります。
- ② 複数 PC を集中管理可能なサーバー型
 →管理できない野良ロボットを発生させないために必要と考えました。
- ③ 大規模導入を想定したときのコストパフォーマンス
 →多数の RPA を動かして業務改善を図ることを想定しました。

■どのように RPA 導入を推進していったのか

- ① 明確な展開スケジュールを設定し、計画的にプロジェクトを実行



- ② RPA 専任担当者の設置 (ノウハウ習得の十分な時間確保)



RPA 専任担当者・田村による社内研修の様子

RPA 専任担当者を設置したことで、他社員がコロナ対策として VPN 構築等に追われている間も、RPA 推進を滞りなく進めることができました。

高輪会では「誰でも RPA を設計・実行できる」ことを目指したいと考え、専任担当者には IT 未経験者を採用しました。ゼロから RPA を学び、現在では社内研修を実施できるまでに成長。法人の IT 化を支える期待の若手社員となりました。

- ③ 経営層を巻き込んだ RPA 推進への理解共有と BPR (ビジネスプロセス・リエンジニアリング = 業務改革)



M・A・R・T

(Medical Automation Robot of Takanawakai)

高輪会の RPA マスコット "MART"

経営層へのプレゼンや、社員へのステッカー配布、マスコットキャラクターの作成など、社内 RPA アピール活動により、受け入れ体制を作りました。

また、ゼロベースで業務を見直し BPR 推進も同時に行ったことで、相乗効果が得られました。

■効果最大化のための工夫

- ① 「業務選定シート」の活用
→単に削減時間を基準にするのではなく、RPA 化のしやすさ、RPA による効率化、業務改善ニーズの高低などを一覧化して優先順位を設定しました。
- ② ゼロベースで業務を見直し BPR 推進を同時に行う
→ロボット構築前に現状の業務を可視化し、プロセスの抜本的な見直しを行い、更なる効率化を目指しました。

■どのような効果があったか



| |
|---|
| ■ 在庫自動発注 5分×30発注×40拠点×12ヵ月=72,000分 |
| ■ 運行管理システム実績ダウンロード 3分×80台×20日×12ヵ月=57,600分 |
| ■ レセプトデータファイル自動取得 5分×20拠点×12ヵ月=1,200分 |
| ■ 電話帳自動登録 2分×200件×12ヵ月=4,800分 |

削減時間

2,260時間
(年間)

RPA を 2019 年 10 月に導入し、専任者 1 名の状況で 9 か月経過した段階で、4 つの業務を RPA により自動化しており、年間換算 2,260 時間の削減効果が見込まれています。(当初の導入目的であるレセプトコンピュータ自動入力プロジェクト進行中のため、削減時間に含めていません)

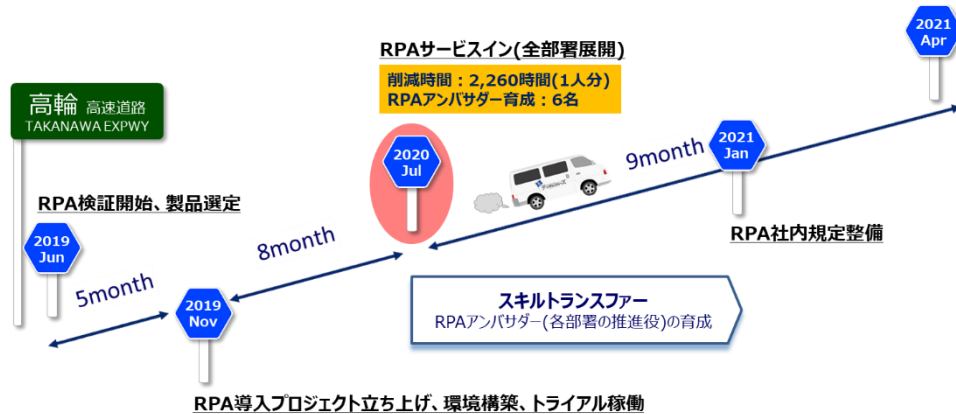
■今後の展望

RPA導入からスケールアップへ

1. RPAアンバサダー(各部署の推進役)の育成
2. RPA社内規定整備
3. RPA導入規模拡大 (AI-OCR, ルールエンジン, チャットボット等)

RPA導入規模拡大(スケールアップ)

削減時間：22,600時間(10人分)
 RPAアンバサダー育成：10名



まだまだ医療法人では紙文化が残り、他の業界に比べ IT 化の速度は非常にゆっくりですが、いずれ RPA がエクセル、パワーポイントと同じレベルのツールとなり、誰もが簡単に使えるような明るい未来に向かって、引き続き更なる RPA の導入推進、RPA アンバサダーの研修、AI-OCR などテクノロジーの導入を進めていきたいと考えております。

■イベント実施概要

イベント名：「Blue Prism World Virtual 2020 Japan」～いまこそ、RPA を使い倒す～

開催期間：2020年7月22日(水)～2020年8月21日(金)

会場：オンライン開催 参加費：無料

詳細・申し込み：<https://www.blueprism.com/japan/blue-prism-world-japan-registration/>

■登壇者情報



コーポレートシステム部・部長

坂下 秀雄 (さかした ひでお)

SIer、INTLOOP 株式会社、大手アパレル企業にて、数億円規模の基幹システム導入や最先端の DX、RPA 導入の実績を持つ。現在は医療法人社団高輪会に参画し、デジタルトランスフォーメーションを推進中。

■8月22日以降は下記 URL より動画視聴が可能ですので、ぜひご覧ください。

(RPA 導入をコンサルティングいただいたプラザジャパン株式会社のページへリンクします)

URL：<https://www.plaza-japan.co.jp/feature/>

本件に関するお問い合わせ先

医療法人社団高輪会 電話：03-5447-2871 FAX：03-5447-2872

〒108-0074 東京都港区高輪 3-25-33 長田ビル 4 階 <https://www.takanawakai.or.jp/>

広報担当：遠藤 携帯：070-1489-7690 メール：endo@takanawakai.or.jp